

仁淀川地域アクションプランの修正について

仁 淀 川 地 域 本 部

令和3年9月21日（火）

修正項目（案）

修正前

仁淀川地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.21 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト (佐川町) ※地域産業クラスター関連 (佐川町木材産業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎佐川町、(仮)道の駅運営主体
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	佐川町の地域食材を活用した食と町民によるおもてなしの心を表す「ご馳走」をコンセプトとした道の駅を新たに整備し、特産品等の販売を促進するとともに、地域の木材に触れられる場の提供や周辺の観光施設との連携を通じて、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 年間売上高	-			
(2) 来場者数	-			

目標値等の精査を行い、R4のVer.3時点で追記予定

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆道の駅施設の整備、体制強化

- ・佐川町道の駅検討委員会で建設候補地等を検討 (H28～29)
- ・道の駅建設候補地の絞り込みと決定 (H30～R元)
- ・関係者等の参画による、道の駅基本構想策定ワークショップを実施 (R元：6回)
 - 第1回：道の駅とは・テーマ毎のアイデア出し
 - 第2回：佐川らしさのキーワード探し
 - 第3回：建設予定地の見学、ゾーニングの検討
 - 第4回：レイアウト、運営体制、商品開発等の検討
 - 第5回：道の駅基本構想（案）の検討
 - 第6回：とりまとめ、次年度への取り組みについて
- ・佐川町道の駅基本計画策定委員会の開催 (R2：3回)
 - 第1回：基本計画の構成(案)及び基本的な方向性の検討
 - 第2回：基本計画(案)、計画策定・事業スケジュールの検討
 - 第3回：基本計画(案)～決定について
- ・「まきのさんの道の駅・佐川」基本設計業務の実施 (R2)

◆佐川町の特産品等の充実強化

- ・佐川町商品開発ワークショップを開催 (R2：5回)

<主な成果>

- ◆関係者によるワークショップを基に、道の駅基本構想を策定 (R元)
- ◆道の駅基本計画策定委員会での協議を通じ、道の駅基本計画を策定 (R2.8月)

<課題>

- ・町全体の賑わいの創出につながる仕組みづくり
- ・道の駅施設の円滑な整備
- ・町ならではの魅力ある商品等の品揃え

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆道の駅施設の整備、体制強化	道の駅施設の整備検討・施設整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 基本計画策定、地盤調査、基本設計及び実施設計の策定、施設整備 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討 				
	運営体制の検討・確立			運営体制の充実・強化	
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 運営管理者の検討及び運営体制の確立、地元との協議、道の駅登録調整 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案 			<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、(仮)道の駅運営主体： 取扱商品やメニューの充実等による物販・飲食・観光機能の強化 スタッフのスキルアップ等による人的体制の強化 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 	
◆佐川町の特産品等の充実強化	物販・飲食・体験型観光メニューの磨き上げ及び開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、(仮)道の駅運営主体： 町内商工業者等との連携による地域資源を活用した商品・メニューの磨き上げ及び開発、町内関係機関との連携による観光客の町内周遊に向けた仕掛け作り ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
				道の駅を核とした販売促進	
				<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、(仮)道の駅運営主体： SNS、メディア等を活用した情報発信 ●県（地域本部等）： 県のメディアサイト等での情報発信、産業振興アドバイザーの活用提案 	
<p>【用語】 ・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

AP名 (実施地域)	No.21 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト (佐川町) ※地域産業クラスター関連 (佐川町木材産業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎佐川町、(一財)しあわせづくり佐川
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	佐川町の地域食材を活用した食と町民によるおもてなしの心を表す「ご馳走」をコンセプトとした道の駅を新たに整備し、特産品等の販売を促進するとともに、地域の木材に触れられる場の提供や周辺の観光施設との連携を通じて、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 年間売上高	-			
(2) 来場者数	-			

目標値等の精査を行い、R4のVer.3時点で追記予定

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆道の駅施設の整備、体制強化

- ・佐川町道の駅検討委員会で建設候補地等を検討 (H28～29)
- ・道の駅建設候補地の絞り込みと決定 (H30～R元)
- ・関係者等の参画による、道の駅基本構想策定ワークショップを実施 (R元：6回)
 - 第1回：道の駅とは・テーマ毎のアイデア出し
 - 第2回：佐川らしさのキーワード探し
 - 第3回：建設予定地の見学、ゾーニングの検討
 - 第4回：レイアウト、運営体制、商品開発等の検討
 - 第5回：道の駅基本構想(案)の検討
 - 第6回：とりまとめ、次年度への取り組みについて
- ・佐川町道の駅基本計画策定委員会の開催 (R2：3回)
 - 第1回：基本計画の構成(案)及び基本的な方向性の検討
 - 第2回：基本計画(案)、計画策定・事業スケジュールの検討
 - 第3回：基本計画(案)～決定について
- ・「まきのさんの道の駅・佐川」基本設計業務の実施 (R2)

◆佐川町の特産品等の充実強化

- ・佐川町商品開発ワークショップを開催 (R2：5回)

<主な成果>

- ◆関係者によるワークショップを基に、道の駅基本構想を策定 (R元)
- ◆道の駅基本計画策定委員会での協議を通じ、道の駅基本計画を策定 (R2.8月)

<課題>

- ・町全体の賑わいの創出につながる仕組みづくり
- ・道の駅施設の円滑な整備
- ・町ならではの魅力ある商品等の品揃え

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆道の駅施設の整備、体制強化	道の駅施設の整備検討・施設整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 基本計画策定、地盤調査、基本設計及び実施設計の策定、施設整備 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討 				
◆佐川町の特産品等の充実強化	運営体制の検討・確立		運営体制の充実・強化		
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 運営管理者の検討及び運営体制の確立、地元との協議、道の駅登録調整 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、(一財)しあわせづくり佐川： 取扱商品やメニューの充実等による物販・飲食・観光機能の強化 スタッフのスキルアップ等による人的体制の強化 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 		
◆佐川町の特産品等の充実強化	物販・飲食・体験型観光メニューの磨き上げ及び開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、(一財)しあわせづくり佐川： 町内商工業者等との連携による地域資源を活用した商品・メニューの磨き上げ及び開発、町内関係機関との連携による観光客の町内周遊に向けた仕掛け作り ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
			道の駅を核とした販売促進		
			<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、(一財)しあわせづくり佐川： SNS、メディア等を活用した情報発信 ●県（地域本部等）： 県のメディアサイト等での情報発信、産業振興アドバイザーの活用提案 		
<p>【用語】 ・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

修正項目 (案)

修正前

仁淀川地域アクションプラン

分野

観光

AP名 (実施地域)	No.23 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進 (仁淀川地域全域)
実施主体	◎(一社)仁淀ブルー観光協議会、土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村、(一社)土佐市観光協会、(一社)いの町観光協会、仁淀川町観光協会、(一社)さかわ観光協会、越知町観光協会、日高村観光協会
APへの位置づけ	H24.4月
事業概要	仁淀川地域の自然、歴史、文化、生活、産業などの多様な地域資源を生かして旅行商品化を進めることで仁淀川ファンの拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川のブランド化を進め、国内外での知名度を高めることで交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 仁淀ブルー観光協議会関連のツアー送客数	6,671人 (H30)	8,014人		7,300人
(2) 主要宿泊施設の宿泊者数	62,232人 (H30)	62,412人		72,000人
(3) 主要観光施設等の入込客数	252,397人 (H30)	281,991人		276,000人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

【指標の主要宿泊施設：11施設】

【指標の主要観光施設等：23施設等】

◆商品造成

- ・着地型観光旅行商品の造成 (H23～)
- ・仁淀ブルーDMOアドバイザーを導入して、事業者等の商品造成を支援 (H30～)

◆広報・誘客促進

- ・国内外メディアの活用や看板掲出によるPRを実施
- ・県外の展示会やイベント等への出展
- ・旅行会社との商談会等のセールス活動を展開 (H23～)
- ・SNSでの記事投稿 (H27～)
- ・流域の観光ガイドブック「NIYODO BLUE!」を作成(H28～)
- ・ホームページの充実化 (H29：スマートフォン対応、多言語対応、H30:OTA(じゃらんネット)との連携)

◆受入・おもてなし

- ・観光関連事業者等を対象とした研修の実施
- ・クルーズ船の寄港に合わせて高知新港での観光PRを実施 (H29～)
- ・簡易型ガイドブックの多言語化 (H30)

◆組織体制強化

- ・広域観光を推進する母体となる仁淀川地域観光協議会を設立 (H22.11月)
- ・協議会の体制強化に向けて法人化し、(一社)仁淀ブルー観光協議会を設立 (H27.12月)

- ・第2種旅行業登録 (H28)
- ・仁淀川地域観光振興計画の策定 (H29.3月)
- ・仁淀ブルーDMO観光戦略の策定 (H30.3月)
- ・仁淀ブルーDMO観光戦略実行ワーキングの実施(H30～)
- ・マーケティング機能の強化(ウェブサイトデータ解析、ウェブアンケートシステムの構築) (H30)
- ・土佐の豊穰祭、高知仁淀ブルーライド、仁淀川ひな回廊、JRトロッコ列車「幕末維新号」との連携事業等を実施
- ・県版地域おこし協力隊を活用したエリア内マーケティングの実施 (R2～)

<主な成果>

- ◆日本版DMO登録 (R2.3月)
- ◆仁淀ブルー観光協議会関連のツアー催行数
H28：181本、H29：207本、H30：241本
R元：272本
- ◆GREAT EARTH「高知仁淀ブルーライド」参加者数
H30：24都道府県343名、R元：27都道府県546名

<課題>

- ・仁淀川及び流域市町村の全国的な認知度のさらなる向上
- ・観光客のさらなる周遊促進による観光消費の拡大
- ・自然景観以外の各施設等における観光客の満足度向上
- ・協議会のマーケティング機能及び市町村連携のさらなる強化

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆商品造成	仁淀川流域らしい商品開発と品揃え強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会： 着地体験プログラム開発サポート、宿泊施設と連携・協働したプログラム開発サポート、周遊促進ツアーの造成・販売、特産品開発サポート、グルメ開発サポート ●市町村、観光協会：着地体験プログラム、宿泊施設と連携・協働したプログラム、特産品、グルメの開発・サポート ●県（地域本部等）：各種アドバイザーや土佐の観光創生塾等セミナーの紹介 				
◆広報・誘客促進	仁淀川流域の魅力的な情報提供力の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会： 公式ホームページの充実、総合パンフレットの充実とデジタルパンフレット化 				
◆受入・おもてなし	誘客を促進するためのセールス・プロモーションの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会： 県内外の旅行会社へのセールス、県内外での仁淀川流域のPR活動、マスコミ活用、インバウンドへの対応（ファミツアーの実施、各種商談会への参加等） ●県：県等が主催する商談会やその他事業の紹介、情報共有 				
◆組織体制強化	受入・おもてなし体制の整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会： ガイド等観光人材の育成、受入のワンストップ体制整備、観光による地域づくりの地域事業者等への理解促進、各拠点で流域の観光情報を共通発信、インバウンド獲得に向けた取り組み ●県：県が主催する研修会等の人材育成事業の紹介、参加支援 				
◆組織体制強化	組織体制・連携強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会： マーケティング機能強化（データに基づく戦略策定・実行）、テーマ別ワーキンググループ開催 ●県：コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援 				
<p>【用語】・観光地域づくり法人（DMO）：DMOは、「Destination Management/Marketing Organization」の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域の誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。 観光庁が登録を所管。R2年4月から登録基準の厳格化に伴い、名称を「日本版DMO」から「登録DMO（観光地域づくり法人）」に、「候補法人」から「候補DMO」に変更。</p> <p>・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook、Instagramなどがある。</p>					

AP名 (実施地域)	No.23 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進 (仁淀川地域全域)
実施主体	◎(一社)仁淀ブルー観光協議会、土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村、(一社)土佐市観光協会、(一社)いの町観光協会、仁淀川町観光協会、(一社)さかわ観光協会、越知町観光協会、(一社)日高村観光協会
APへの位置づけ	H24.4月
事業概要	仁淀川地域の自然、歴史、文化、生活、産業などの多様な地域資源を生かして旅行商品化を進めることで仁淀川ファンの拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川のブランド化を進め、国内外での知名度を高めることで交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 仁淀ブルー観光協議会関連のツアー送客数	6,671人 (H30)	8,014人		7,300人
(2) 主要宿泊施設の宿泊者数	62,232人 (H30)	62,412人		72,000人
(3) 主要観光施設等の入込客数	252,397人 (H30)	281,991人		276,000人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

【指標の主要宿泊施設：11施設】

【指標の主要観光施設等：23施設等】

◆商品造成

- ・着地型観光旅行商品の造成 (H23～)
- ・仁淀ブルーDMOアドバイザーを導入して、事業者等の商品造成を支援 (H30～)

◆広報・誘客促進

- ・国内外メディアの活用や看板掲出によるPRを実施
- ・県外の展示会やイベント等への出展
- ・旅行会社との商談会等のセールス活動を展開 (H23～)
- ・SNSでの記事投稿 (H27～)
- ・流域の観光ガイドブック「NIYODO BLUE!」を作成(H28～)
- ・ホームページの充実化 (H29：スマートフォン対応、多言語対応、H30:OTA(じゃらんネット)との連携)

◆受入・おもてなし

- ・観光関連事業者等を対象とした研修の実施
- ・クルーズ船の寄港に合わせて高知新港での観光PRを実施 (H29～)
- ・簡易型ガイドブックの多言語化 (H30)

◆組織体制強化

- ・広域観光を推進する母体となる仁淀川地域観光協議会を設立 (H22.11月)
- ・協議会の体制強化に向けて法人化し、(一社)仁淀ブルー観光協議会を設立 (H27.12月)

- ・第2種旅行業登録 (H28)
- ・仁淀川地域観光振興計画の策定 (H29.3月)
- ・仁淀ブルーDMO観光戦略の策定 (H30.3月)
- ・仁淀ブルーDMO観光戦略実行ワーキングの実施(H30～)
- ・マーケティング機能の強化(ウェブサイトデータ解析、ウェブアンケートシステムの構築) (H30)
- ・土佐の豊穰祭、高知仁淀ブルーライド、仁淀川ひな回廊、JRトロッコ列車「幕末維新号」との連携事業等を実施
- ・県版地域おこし協力隊を活用したエリア内マーケティングの実施 (R2～)

<主な成果>

- ◆日本版DMO登録 (R2.3月)
- ◆仁淀ブルー観光協議会関連のツアー催行数
H28：181本、H29：207本、H30：241本
R元：272本
- ◆GREAT EARTH「高知仁淀ブルーライド」参加者数
H30：24都道府県343名、R元：27都道府県546名

<課題>

- ・仁淀川及び流域市町村の全国的な認知度のさらなる向上
- ・観光客のさらなる周遊促進による観光消費の拡大
- ・自然景観以外の各施設等における観光客の満足度向上
- ・協議会のマーケティング機能及び市町村連携のさらなる強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆商品造成	仁淀川流域らしい商品開発と品揃え強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会： 着地体験プログラム開発サポート、宿泊施設と連携・協働したプログラム開発サポート、周遊促進ツアーの造成・販売、特産品開発サポート、グルメ開発サポート ●市町村、観光協会：着地体験プログラム、宿泊施設と連携・協働したプログラム、特産品、グルメの開発・サポート ●県（地域本部等）：各種アドバイザーや土佐の観光創生塾等セミナーの紹介 				
◆広報・誘客促進	消費を増やすための流通と販売の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会、市町村、観光協会等： 協議会ホームページで宿泊・体験プログラムを予約販売できる仕組みの構築、飲食店を予約できる仕組みの検討、特産品を販売できる仕組みの検討 				
◆受入・おもてなし	仁淀川流域の魅力的な情報提供力の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会： 公式ホームページの充実、総合パンフレットの充実とデジタルパンフレット化 				
	誘客を促進するためのセールス・プロモーションの強化				
◆組織体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会： 県内外の旅行会社へのセールス、県内外での仁淀川流域のPR活動、マスコミ活用、インバウンドへの対応（ファミツアーの実施、各種商談会への参加等） ●県：県等が主催する商談会やその他事業の紹介、情報共有 				
	受入・おもてなし体制の整備				
◆組織体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会： ガイド等観光人材の育成、受入のワンストップ体制整備、観光による地域づくりの地域事業者等への理解促進、各拠点で流域の観光情報を共通発信、インバウンド獲得に向けた取り組み ●県：県が主催する研修会等の人材育成事業の紹介、参加支援 				
	組織体制・連携強化				
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)仁淀ブルー観光協議会： マーケティング機能強化（データに基づく戦略策定・実行）、テーマ別ワーキンググループ開催 ●県：コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援 					
<p>【用語】・観光地域づくり法人（DMO）：DMOは、「Destination Management/Marketing Organization」の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域の誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。 観光庁が登録を所管。R2年4月から登録基準の厳格化に伴い、名称を「日本版DMO」から「登録DMO（観光地域づくり法人）」に、「候補法人」から「候補DMO」に変更。</p> <p>・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook、Instagramなどがある。</p>					

修正項目（案）

修正前

仁淀川地域アクションプラン		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.33 日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進 (日高村)		
実施主体	◎日高村観光協会、日高村		
APへの位置づけ	H21.4		
事業概要	仁淀川や猿田洞、日下川調整池等の日高村ならではの自然を生かした体験型観光の推進や、小村神社秋の大祭等の季節ごとの特色あるイベントの実施により、交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。		

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 体験参加人数	1,370人 (H30)	2,324人		2,500人
(2) 小村神社周辺イベント 来場者数	2,168人 (R元)	2,168人	1,956人 (対前年度比 90.2%)	2,500人

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆観光情報の発信及び観光事業の推進体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の駅ひだか内に観光情報発信コーナーとして「村の案内所ひだか」を設置（H26） ・産業振興アドバイザー制度を活用し、観光協会組織の立ち上げに向けた関係者での協議を開始（H30:5回） ・村の駅ひだかの駐車場敷地内の一角に観光案内所を整備し「村の案内所ひだか」を移設（H31.4月） ・日高村観光協会を設立（R元.11月） <p>◆体験型観光等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日高村観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめ、観光ガイド組織の立ち上げやガイド育成、モニターツアー等の取り組みを実施（H25） ・村の案内人クラブを事務局として、フットパスやケイビング等のガイド付き体験観光メニューの提供を本格的に開始（H26～） ・江尻地区かわまちづくり事業による親水公園の整備（H28～） ・インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト 日下川新規放水路第1回現地協議会の開催（R2.12月） 	<p>◆小村神社及び国宝への観光客の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「村の駅ひだか」内に国宝の大刀(レプリカ)を展示し、小村神社の魅力を発信（H26～） ・(特非)日高わのわ会が、小村神社を会場とするイベント「日高メシふえすていばる!!!!」を開催（H26～） <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「村の案内所ひだか」が設置されたことで、観光をはじめとする日高村でのイベント情報の一元化、情報発信・案内を行えるようになった。 ◆日高村観光協会 HP 上で、一部体験メニューの受付を開始（R元.11月～） ◆屋形船への乗船者数 H28：5,276人 → R元：7,393人 ◆「オムライス街道」によるオムライス販売数 H26：38,300食 → R元：56,825食 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信及び村内事業者間での連携の強化 ・小村神社及び国宝の認知度向上に向けた取り組み
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光情報の発信及び観光事業の推進体制強化	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">日高村観光協会を中心とした情報発信</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●日高村観光協会： 観光案内所への来客や問い合わせへの対応、観光情報の一元化によるホームページや SNS 等での情報発信、ガイドブックの作成、各種メディアの活用 				
◆体験型観光等の推進	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">体験観光メニュー等の磨き上げ</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●日高村観光協会： ガイド人材の育成及び発掘、新たな体験メニューの開発、村内イベント開催の支援、村内事業者間の連携による周遊プランの作成 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">体験観光メニュー等の販売促進</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●日高村及び日高村観光協会： (一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した旅行会社等へのセールス及び情報発信 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、商談会等の紹介 				
◆小村神社及び国宝への観光客数の誘致	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">小村神社及び国宝を活用したイベント等の開催</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●日高村及び日高村観光協会： イベントの実施及び情報発信、国宝を活用した新たなイベントの検討、(一社)仁淀ブルー観光協議会との連携によるプロモーションの強化 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、イベント情報等の広報支援 				
<p>【用語】 ・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

分野	観光
----	----

AP名 (実施地域)	No.33 日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進 (日高村)
実施主体	◎(一社)日高村観光協会、日高村
APへの位置づけ	H21.4
事業概要	仁淀川や猿田洞、日下川調整池等の日高村ならではの自然を生かした体験型観光の推進や、小村神社秋の大祭等の季節ごとの特色あるイベントの実施により、交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 体験参加人数	1,370人 (H30)	2,324人		2,500人
(2) 小村神社周辺イベント 来場者数	2,168人 (R元)	2,168人	1,956人 (対前年度比 90.2%)	2,500人

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆観光情報の発信及び観光事業の推進体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の駅ひだか内に観光情報発信コーナーとして「村の案内所ひだか」を設置 (H26) ・産業振興アドバイザー制度を活用し、観光協会組織の立ち上げに向けた関係者での協議を開始 (H30:5回) ・村の駅ひだかの駐車場敷地内の一角に観光案内所を整備し「村の案内所ひだか」を移設 (H31.4月) ・日高村観光協会を設立 (R元.11月) <p>◆体験型観光等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日高村観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめ、観光ガイド組織の立ち上げやガイド育成、モニターツアー等の取り組みを実施 (H25) ・村の案内人クラブを事務局として、フットパスやケイビング等のガイド付き体験観光メニューの提供を本格的に開始 (H26~) ・江尻地区かわまちづくり事業による親水公園の整備 (H28~) ・インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト 日下川新規放水路第1回現地協議会の開催 (R2.12月) 	<p>◆小村神社及び国宝への観光客の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「村の駅ひだか」内に国宝の大刀(レプリカ)を展示し、小村神社の魅力を発信 (H26~) ・(特非)日高わのわ会が、小村神社を会場とするイベント「日高メシふえすていばる!!!!」を開催 (H26~) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「村の案内所ひだか」が設置されたことで、観光をはじめとする日高村でのイベント情報の一元化、情報発信・案内を行えるようになった。 ◆日高村観光協会 HP 上で、一部体験メニューの受付を開始 (R元.11月~) ◆屋形船への乗船者数 H28 : 5,276人 → R元 : 7,393人 ◆「オムライス街道」によるオムライス販売数 H26 : 38,300食 → R元 : 56,825食 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信及び村内事業者間での連携の強化 ・小村神社及び国宝の認知度向上に向けた取り組み
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光情報の発信及び観光事業の推進体制強化	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">(一社)日高村観光協会を中心とした情報発信</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)日高村観光協会： 観光案内所への来客や問い合わせへの対応、観光情報の一元化によるホームページや SNS 等での情報発信、ガイドブックの作成、各種メディアの活用 				
◆体験型観光等の推進	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">体験観光メニュー等の磨き上げ</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)日高村観光協会： ガイド人材の育成及び発掘、新たな体験メニューの開発、村内イベント開催の支援、村内事業者間の連携による周遊プランの作成 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">体験観光メニュー等の販売促進</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●日高村及び(一社)日高村観光協会： (一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した旅行会社等へのセールス及び情報発信 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、商談会等の紹介 				
◆小村神社及び国宝への観光客数の誘致	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center;">小村神社及び国宝を活用したイベント等の開催</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●日高村及び(一社)日高村観光協会： イベントの実施及び情報発信、国宝を活用した新たなイベントの検討、(一社)仁淀ブルー観光協議会との連携によるプロモーションの強化 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、イベント情報等の広報支援 				
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <p>【用語】 ・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p> </div>					